

Book Review

しくはっく 歯苦歯苦 こうして治した歯周病

北川原 健 著



Reviewer

永田省藏

(熊本県・永田歯科クリニック)

A4 判変, 40 頁
定価 3,150 円
(本体 3,000 円+税 5%)
医歯薬出版刊



いまや、歯周治療の学術分野では、歯周組織の発生から病因や免疫など、歯科医の常識として病理学的な理解が求められ、処置においてはエムドゲインなどの先進的な材料・手法も積極的に臨床応用することが学会でも教育されている。これも時流に乗り遅れず、第一線の歯科医として活躍するには必要なステップの一つかもしれない。

しかし、このようなご時世だからこそ、歯周治療の体系として揺らがな部分と先進材料・手法のトピックを、「幹」と「枝葉」に分けてそれぞれを理解する目が必要だと思う。その判断ができないと、『科学的根拠に基づいて治療された歯周組織＝長期安定性』といった公式があるように錯覚してしまうのだ。本書の著者は、歯周組織と向かい合いながら、患者さんという「人」を相手にしている。歯周治療を通しての患者との長いつきあいから、「歯肉を診る目」とどまらず、「患者を見る目」をもって治療し、メンテナンスから学ぶ姿勢を教えられる。

本書は、歯周治療の「幹」を多くの患者さんの長期症例から示している。30 数年という長期経過例を、歯周組

織と患者さんの両方の目から振り返るのである。

まず、患者さんの体験記から始める。患者さんと医院側とが一体になっての歯周治療への取り組みから健康を取り戻され、メンテナンスにおいてもスタンスの良い関係から、途切れることなく長期に通院されることで生涯の健康を維持していらっしゃるように感じる。そこに必要なものが医療人としてのかわりなのかかもしれない。

また、治療の実際については、必要にして十分な診査のあり方を丁寧に紹介されている。卒後間もない歯科医でも、検査のステップがよく理解できると思う。特に、ブラークコントロールではどこをどういう器具を用いれば効果的なのかについては、患者さんが実際に使用している画像から、そのコツまでもが伝わってくる。

まために記されているが、① 患者さんが自分の役割を果たし、② われわれが適切な治療を行い、③ 定期的なメンテナンスを続けること——それによって歯が長期に安定して維持される。この方針を生涯一貫として実践されている著者の言葉を裏付けるよう

に、“歯苦歯苦”の成果は最後のページのデータが物語っている。著者の医院のメンテナンスを受けられた 1,000 人を超える患者さんの平均残存歯数が約 25 歯であり、80 歳以上の方も平均 20 歯残存という驚異的な数値である。本書の趣旨をわれわれ歯科医と患者さんの双方でともに理解し、“適切な歯周治療”の仕組みを学び実践することで、医院のよりよい治療と予防の体系が見直されることになることだろう。

読者にも、本書を通して北川原先生の人となりが見えてくることと思われるが、人間好きの優しさに溢れた先生である。そして、これまで先生を支えてこられた奥様の暖かい心象的な挿絵が、わかりやすい解説文や患者さんの談話の間に織り込まれて、心地よい読後感を感じる。これは学術書の類いではめずらしく、やはり、奥様の絵が効いているのである。

ぜひ患者さんに読んでもらいたい本でありながら、われわれにとっても「歯周治療とは何か」を原点に立ち返り再認識することになる小冊子である。